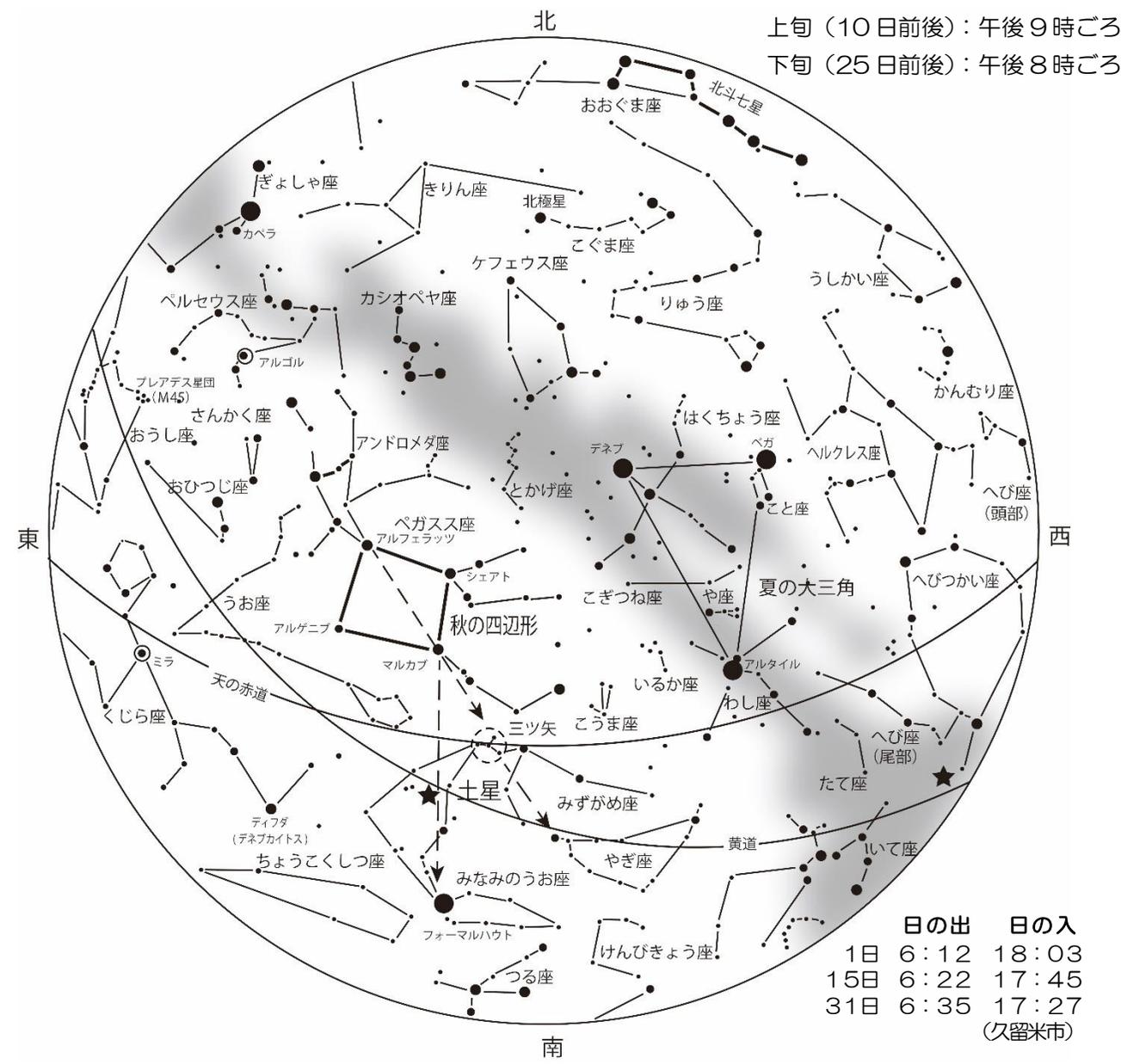


# 令和6年 10月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



## ★10月の星空案内

日の入りの時刻もだんだんと早くなり、日増しに秋の深まりを感じるようになりました。この時期の夜空では、西の空にはまだまだ『夏の大三角』が見えています。そして、東の空には秋の星座が見えるようになりました。

秋の星座を見つけるには、南東の空にある四角形の星の並びを目印にペガサス座を探すところから始めましょう。アルフェラツ・シェアト・マルカブ・アルゲニブの4つの星でつくる四角形の星の並びは『秋の四辺形』とも呼ばれ、秋の星座さがしのガイド役になります。まず、アルフェラツとマルカブを結んだ線を地平線の方にのばすとアルファベットの Y の字のような星の並びを見つけることができます。この星の並びは『三ツ矢』と呼ばれ、みずがめ座を見つける目印になります。アルフェラツとマルカブを結んだ線を三ツ矢からさらにのばしていくと、逆三角形の星の並びを目印にやぎ座を見つけることができます。次にシェアトとマルカブを結んだ線を地平線の方にのばすと1等星のフォーマルハウトがあり、これを目印にみなみのうお座を見つけることができます。フォーマルハウトは『南のひとつ星』とも呼ばれています。また、マルカブとフォーマルハウトの間に土星も輝いています。

10月は『秋の四辺形』や土星をたよりに、秋の星座を探してみたいはいかがでしょうか。

【 見ごろの惑星 】 (☆マークは、今月のおすすめです。)		
水星(-1.3等前後)	: おとめ座	観望に適さない。
☆金星(-4.0等前後)	: てんびん座	日の入り後、南西の低空で輝く。
☆火星(0.3等前後)	: ふたご座→かに座	夜半前、東の空に昇り、日の出前、南東の空高いところで輝く。
☆木星(-2.6等前後)	: おうし座付近	真夜中、東の空で輝く。
☆土星(0.7等前後)	: みずがめ座付近	真夜中、南の空で輝く。

注目の天文現象(10月) ～木星や火星に近づく月を観察しよう～

10月下旬になると、日の入りから3時間ほど経った頃に、木星が東の空から昇ってきます。10月20日から21日には、木星の近くに月が見えます。月も木星も大変明るいため、東の低空にあって見つけやすいでしょう。真夜中になる頃には、冬の星座に含まれる1等星を結んで描く『冬のダイヤモンド』が木星を取り囲むように昇ってくるため、大変目をひく眺めとなります。明るい星々は、月明かりがあってもよく目立ち、美しい光景になるでしょう。

また、木星の近くに見えていた月は日に日に高度を下げ、23日夜から24日深夜には火星の近くに見えなくなります。ぜひ、深夜または翌日の夜明け前に観察してみてください。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
3	木	● 新月 (03:49)	21	月	オリオン座流星群が極大
11	金	◐ 上弦 (03:55)	24	火	◑ 下弦 (17:03)
17	木	○ 満月 (20:26)			